

2025年度クロマトグラフィー科学会功労受賞者プロフィール



黒木 祥文　くろき よしふみ

現職

セナーアンドバーンズ株式会社 専門部長

現在の専門

分析化学、超純水精製技術

学歴・職歴

- 1987年 東京水産大学水産学部海洋環境工学科卒業（水産学士）
- 1999年 産能大学大学院経営情報学研究科修了（経営学修士）
- 1988年 日本ミリポア・リミテッド
- 2005年 オルガノ株式会社
- 2009年 Veolia Water Solutions & Technologies (UK) Ltd. ELGA LabWater
（日本法人：ヴェオリア・ジェネッツ株式会社 エルガ・ラボウォーター事業部）
- 2025年 セナーアンドバーンズ株式会社

学位

受賞歴

- 2025年 クロマトグラフィー科学会功労賞

研究業績

- 原著論文 15編、著書 18編、総説 1編

クロマトグラフィー分析を支える「超純水」の重要性

黒木 祥文

このたび、クロマトグラフィー科学会功労賞という栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。長年にわたり、超純水装置のマーケティング・開発に関わる中で、超純水の精製技術にとどまらず、分析用水の水質管理という側面からクロマトグラフィー分析に関わってこられたことは、私にとって大きな喜びです。この場をお借りし、これまでの歩みと、今後の分析化学の発展における「超純水」の役割について、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

私は1988年に日本ミリポアに入社後、ラボ用超純水装置の技術営業と応用開発からキャリアをスタートいたしました。以来、日本ミリポア、オルガノ、そしてヴェオリア・ジェネッツ（エルガ・ラボウォーター）そして現在のセナーアンドバーンズと、一貫して「超純水」の水質管理の技術に携わってまいりました。常々講演時に申しておりますが「一度 水商売にハマるともう抜けられません。」と言い続けて37年が経ちました。

液体クロマトグラフィーは、日々進化する分離技術や検出技術によって、より高感度で高精度な分析が可能になっています。しかし、その根底を支えているものの一つは、試料や移動相の調製に不可欠な「超純水」です。分析精度を追求する上で、使用する水の品質は決して無視できない要素です。微量分析の現場では、水の不純物がゴーストピークとして現れたり、ベースラインを不安定にさせたりするなど、分析結果に深刻な影響を与えることがあります。特に近年、PFASのような環境汚染物質の分析においては、水の純度が分析の信頼性を直接左右することが、改めて認識されています。

私の活動は、単に超純水装置を提供することに留まりません。学会や国際会議への参加を通じて、液体クロマトグラフィーの最新動向を常に把握し、得られた知見を基に水の品質に関する情報を発信し続けてまいりました。分離・検出技術に注目が集まる中、縁の下の力持ちである「水」の重要性を訴え、その役割を広く知っていただくことに尽力してまいりました。

また、クロマトグラフィー科学会への貢献にも喜びを感じています。2011年の入会以来、評議員を務めさせていただくとともに、年会・シンポジウムでの技術講演やポスター発表、機関誌への論文掲載などを通じて、皆様との交流を深めることができました。製品展示やランチョンセミナーなどを通じて、学会の運営に対する協力も、私にとって重要な活動の一つでした。

クロマトグラフィー科学は、今後も新たな分析ニーズに応えながら発展していくことでしょう。その未来を支えるため、これからも超純水装置に関わり続けて、より一層高精度な分析を可能にする「超純水」の研究開発ならびに水質管理の普及に努めてまいります。

最後に、この功労賞の受賞は、長年支えてくださった齋戸美弘先生、浜瀬健司先生をはじめ、宮野博氏、立木秀尚氏、原田勝寿氏と多くのクロマトグラフィー科学会の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。これからもクロマトグラフィー科学の発展に微力ながら貢献できるよう努めてまいります。クロマトグラフィー科学会の益々の発展を祈念しまして受賞記念の寄稿とさせていただきます。ありがとうございました。